

間質性膀胱炎に対する膀胱水圧拡張術の高度先進医療の認定を受けました

間質性膀胱炎とは？

「尿が近い」「尿がたまるとお腹が痛い」などの症状が長期間持続するのが特徴です。

一般的な細菌感染による膀胱炎と異なり、尿検査ではほとんど異常がない事が多く、抗生剤や頻尿改善薬でも症状が良くなりません。

原因は、アレルギー等の関与が疑われていますが、まだはっきりとわかっていません。

診断と検査

- ①症状について、問診を行います。
- ②排尿記録用紙（何時に何 ml 位尿が出たかを、自宅で記録していただきます）の記入
- ③エコー、検尿（他の病気が隠れていないかを確認します）

間質性膀胱炎の疑いが強いと考えられた場合は、以下のような検査をします

- ④膀胱鏡：尿道から膀胱にカメラを挿入し、膀胱の状態を観察します。

治療法

- ①麻酔下膀胱鏡・膀胱水圧拡張術

麻酔を行い膀胱内に生理的食塩水を注入し、膀胱を拡張します。間質性膀胱炎の場合、以下のような典型的な所見が見られます。

- ・五月雨様出血：膀胱の拡張後、細かい出血が起こります
- ・Hunner 潰瘍：重症の場合、膀胱の拡張後膀胱粘膜の亀裂が見られます。

膀胱水圧拡張術により、間質性膀胱炎の診断を行います。

小さくなった膀胱に水で圧をかけて広げることによって症状が軽快する場合があります。（効果が一時的な場合があるため、術後も経過を見る必要があります）

また、膀胱の粘膜検査や、必要な場合は膀胱粘膜の焼灼術などを一緒に行います。

- ②内服薬 色々な薬剤が試されていますが、残念ながら劇的に効果があるものは今のところありません

高度先進医療

膀胱水圧拡張術は厚生労働省により先進医療指定を受けています。

先進医療の治療を行う場合は、手術費用が自己負担となります。当院での膀胱水圧拡張術に関する費用は手術料金 61,000 円です。

診察や投薬や検査などは保険適応となります。